

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

つ の ぶ え

TSUNOBUE

2018年 6月20日

第 416 号



社会福祉法人
小羊学園

住 所 〒433-8105
静岡県浜松市北区三方原町2709-12
電 話 053-584-3337 FAX 053-585-8488
E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp
HP http://www.kohitsuji.or.jp/
発行人 稲松 義人
印刷所 アド・アール株式会社



浜松市障がい者基幹相談支援センターが開設



聖書に、キリストは12人の弟子の他に72人の自分の行くつもり町の村に二人ずつ送り出し、どこかの家に入ったら、まず、『この家に平和があるように』と言いなさいと言ったと示されている。(ルカ10:1)キリスト教の精神に立つということは、キリスト自身がそうされたように、貧しい人たちに希望を伝え、弱い者たちを支援し、孤立する人たちとつながろうとするのではないかと思う。それは、自分を訪ねてきた人だけを対象とするのではなく、むしろ町や村に出かけて行って、その地域のそれぞれの家庭に入り込むところから始まっている。これまでの日本の福祉は、多くが施設の中でなされてきた。しかし本来の福祉は、施設を訪ねてくる人だけが対象ではなく、むしろ、地域を訪ね歩いて、そこに暮らす人たちの「平和」を祈ることにその本質があるのかもしれない。「相談」という仕事には、そのことを感じさせてくれる出会いがある。(一)

楽しい遊具をいただきました！

5月16日、(東海防災様ならびに清水銀行様から、小羊学園に飛んで跳ねて楽しい「ふわふわマウンテン」2セット/踏むと音を奏でる「ドレミマット」1セットをご寄贈いただきました。当日は東海防災の中村代表取締役、清水銀行の小林執行役員が支援センターわかぎに来訪され、稲松理事長に目録および遊具を贈呈されました。

この場をお借りして、ご厚意に感謝申し上げます。

右 清水銀行 小林執行役員
中 稲松理事長
左 東海防災 中村代表取締役



平成31年(2019年) 新卒採用募集のご案内

社会福祉法人小羊学園では、以下の通り平成31年4月採用の募集を行います。

- ◎採用職種：児童指導員、生活支援員、社会福祉士、介護福祉士、保育士等の資格取得見込みの方希望だが、無資格可
- ◎募集要項：静岡県内および東海地域の社会福祉系、児童系の養成学校に配布しています。小羊学園HP上でも公開しています。
- ◎応募締切：平成30年8月3日(金)
- ◎採用試験：静岡会場 平成30年9月8日
浜松会場 平成30年9月15日

■問い合わせ

小羊学園法人本部 担当：池谷
TEL:053-584-3337

今回から「つのがき」がリニューアルして、2か月に1回の発行となりました。今年度は「つなぐ」をテーマとして、人と人・関係機関・地域など、共生社会を実現するための支えあいポイントを絞った紙面構成していきたいと思っています。つながりの輪の中心にいつも「弱さの求心力」があり、そこに群れる多くの人々が支えあうそんな社会になることを願っています。年々、猛暑・酷暑が厳しくなっています。熱中症や脱水症状にならぬよう、皆さま、どうぞお身体を大切になさってください。

(F)

平成30年度新規職員 新しい仲間をどうぞよろしく！

- ◇三万原スクエア
・生活支援員：岸田英里子、鈴木雅翔、高田 淳
- ◇温心寮・生活支援員：小嶋遥菜
- ◇支援センターわかぎ
・看護師：山本里歩
- ・生活支援員：八ヶ代舞里奈、佐藤伊織
- ◇つばさ静岡
・看護師：小牧 睦
・管理栄養士：望月友季恵
- ・生活支援員：平岡みさき、岩井 萌、功刀幹太
- ◇マルカート
・生活支援員：安藤沙穂
・生活支援員：安藤沙穂

2018年度 小羊学園支える会総会のご案内

日 時：平成30年7月21日(土)
11時から12時
ところ：支援センターわかぎ 会議室
浜松市浜北区平口5042
議 題：平成29年度支える会報告
平成29年度各事業所報告
平成30年度支える会活動(案)
その他、意見交換
☆保護者・支援者・職員問わず、どなたでも参加できます。

小羊学園を支える会

2017年度 寄付金報告

累 計 6,748,584円(343件)
多くのお支えに感謝申し上げます

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。
下記へご連絡ください。
小羊学園を支える会事務局(鈴木)
小羊学園法人本部 ☎053-584-3337

テーマつなぐ この人にスポット！

浜松市障がい者基幹相談支援センター長

雨宮 寛 氏

☆2018年4月から、基幹相談支援センターが開設され、センター長に就任した雨宮氏にお話を聞きました！

インタビューア

法人広報担当 古橋 誠

そもそも基幹相談ってなあに？

【古橋】今日は多忙の中、時間をとっていただきありがとうございます。この4月に浜松市障がい者基幹相談支援センターが立ち上がりましたが、基幹相談って一体どんなことをする仕事なんでしょうか？

【雨宮】聞きなれない名称ですよ。この4月に立ち上がったばかりなので、知らない人もたくさんいると思います。

基幹相談支援センター事業とともに地域生活支援拠点等事業も受託しています。ざっくりいうと『地域で障がいのある方の相談を受ける相談支援事業



デスクは市役所鴨江分庁舎1Fにある

所に対して専門的な助言等のバックアップを行いながら相談体制の強化を図る（基幹相談事業）と「親なき後」を見据え、住み慣れた地域で障害のある方が安心して生活できるように、地域の支援体制を構築する（地域生活支援拠点事業）役割』ということでしょう。か。福祉圏域に1か所設置するよう国の制度で定められ、浜松市から委託という形でセンターを立ち上げました。障がいに関わる相談支援の経験豊富な相談員が市内5法人から集まっています。*1Pの集合写真のメンバー。

なり、この4月に浜松市基幹相談支援センターに配属になった次第です。

雨宮氏の原動力とこれから

【古橋】幼児期から成人期、さらには高齢のご家族など多くの人たちと関わってきたと思いますが、その原動力って何でしょう。

【雨宮】うーん、難しい質問ですね。

原動力というか、教会で育ったからですかね。良きサマリア人の話を何回も聞かされ、困っている人がいれば手助けする支援する、と刷り込まれているのかもしれない。その意味では、育ちの環境は、後のその人に影響を与えているということは、あるのかもしれないね。

【古橋】そうなんです。では、仕事上での自分を変えたと思えるエピソードってありますか？

【雨宮】小羊学園青年寮時代のMさんとの関わりかな。今でいう強度行動障がい、特に強い青年でした。強いこだわりがあり、不安定になると自傷行為や他害行為がある方で、毎日悪戦苦闘の連続でした。彼との関りが、自分の中で大きな礎になったし、当時、苦勞した経験が今に活かされていると思っ

この仕事に就くきっかけは？

【古橋】雨宮さんは私の3年先輩にあたると思うのですが、どんな経緯で小羊学園に就職されたのですか。

【雨宮】正直言うと障がい福祉に携わるなんて若い頃は考えてもいませんでした。私の出身は鹿児島県の奄美大島ですが、父は牧師で、当時、まだまだ未開発な小さな島で開拓伝道と称し、舗装されていない道を島中、自転車で行き回っていたようです。父は伝道の活動を通して、ハンセン氏病患者の支援や、刑務所服役後の保護司のような活動もしていたようです。それ以外にも、通級が難しい入院児童のために院内学級の設立への関りや聖隷福祉事業団の支援を受け特別養護老人ホーム「奄美カナン」の園の設立等、精力的に奄美の福祉に関わっていました。そんな父の様子を傍目に見て、漠然と人の役に立つ仕事をしたいと思ったのかもしれない。高橋生までは奄美の大自然の中で過ごし、四国学院大学を経て、いざ就職という時に、兄や姉が働いていた縁もあって浜松にきました。そこで初めて小羊学園を知り、障がい福祉と出会ったのです。

【古橋】なるほど、そんな経緯があったんですね。では、就職以降はどんなうな強度行動障がいを持つ方の家庭支援やサービスのつなぎには困難さを感じます。ですから、今後、基幹相談支援センターで考えていることの一つとして、強度行動障がいの人たちを支えるネットワークや支援の仕組みを考えたいと思っています。

【古橋】現状、障害者支援施設の短期入所事業でも、このような課題はありますし、受け入れ側としても自分たちの施設だけでは解決できない課題をネットワークの中で支える仕組みづくりには大いに期待しています。その他に、今後基幹相談でさらに進めていきたいと思うことってありますか。

【雨宮】強度行動障がいに限らず、障がいのある人たちが、日常生活を送る地域で安心して生活できるようなネットワーク作りを進めて行きたいし、オール浜松と呼べるような浜松なりの体制づくりができなかなと思っています。

ちょっとプライベート聞かせて

【古橋】お話を伺っていて、大変な役割だと思うのですが、少しプライベートな質問していいですか？ご家族やお



漠然と人の役に立つと言いつつも、思いは熱い

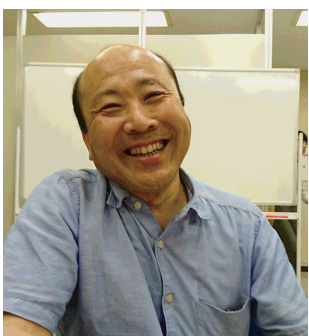
仕事に携わっていました？

【雨宮】私が小羊学園に就職したのが、昭和62年4月で、配属は小羊学園青年寮でした。稲松理事長はじめ、そうそうたる先輩がおられ、そんな先輩達の背中を追う中で、自分の障害福祉のベースが培われたと思います。そんな先輩達の異動などで4年目の平成2年からは主任になり、ご家族や関係機関と交わりが深くなり、施設支援だけではなく、在宅支援への意識も高まり、学びを深めようと学生時代には制度化されていなかった社会福祉士の資格も、この時期に取得しました。

平成12年に若樹学園（現支援センターわかぎ）へ、平成16年に地域療育支援センターアグネスへ異動し、現在

【雨宮】妻と子供が3人います。子供たちはもう自立を迎える年齢になってきましたよ。趣味って言うかどうかわからないけど、映画鑑賞は好きですね。あと、しおりの湯とかスパー銭湯に行つて日々の疲れを癒しています。

【古橋】そういえば私も何度かしおりの湯でお会いしていますよね。お互いリフレッシュして、それぞれの立場で地域づくりの一助となるよう、頑張っていきましょう。本日は、お忙しい中、お時間取っていただきありがとうございます。



オール浜松つくらまいか！

浜松市障がい者
基幹相談支援センター
相談員
1P写真右から（雨宮氏除く）
*松井 亮
（福）聖隷福祉事業団
*岸 直樹
（医）至空会
*山下 由佳
（医）好生会
*永田 貴裕
（福）天竜厚生会